



## 幼児教育と小学校教育の違い

	幼稚園・保育所等	小学校
教育のねらい・目標	方向目標 「味わう」方向付けを重視	到達目標 「できるようにする」目標への到達度を重視
教育課程	経験カリキュラム	教科カリキュラム
教育の方法等	遊びを通した総合的な指導	教科等の目標・内容に沿って選択された教材によって教育が展開

5

### 小学校教育との接続について 【各要領・指針における記述】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章総則 第2 1 (5)  
幼稚園教育要領 第1章 総則 第3 5(1)  
保育所保育指針 第2章 4 (2) ア

幼保連携型認定こども園（幼稚園、保育所）においては、その教育及び保育が（幼稚園教育、保育所保育）、小学校以降の生活や学習の基盤の育成につながることに配慮し、（乳）幼児期に**ふさわしい生活**を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を培うようにするものとする。

図1

## 幼児教育と小学校教育の違い



ペネッセ教育総合研究所 これからの幼児教育より抜粋

### 小学校教育との接続について 【各要領・指針における記述】

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 第1章総則 第2 1 (5)  
幼稚園教育要領 第1章 総則 第3 5(2)  
保育所保育指針 第2章保育の内容 4 (2)

幼保連携型認定こども園の教育及び保育において育まれた資質・能力（※幼稚園教育要領では「幼稚園教育において育まれた資質・能力」、保育所保育指針では、「保育所保育において育まれた資質・能力」）を踏まえ、小学校教育が円滑に行われるよう、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会などを設け、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有するなど連携を図り、幼保連携型認定こども園における教育及び保育（※幼稚園教育要領では「幼稚園教育」、保育所保育指針では、「保育所保育」）と小学校教育との円滑な接続を図るよう努めるものとする。

7

8

## 【小学校学習指導要領における学校段階等間の接続に関する記載】

### ○ 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の重要性を記載

<参考>

小学校学習指導要領

第1章 総則 第2 教育課程の編成

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等(※)に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して

育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

※幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を「幼稚園教育要領等」としている。

9

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえてとは・・

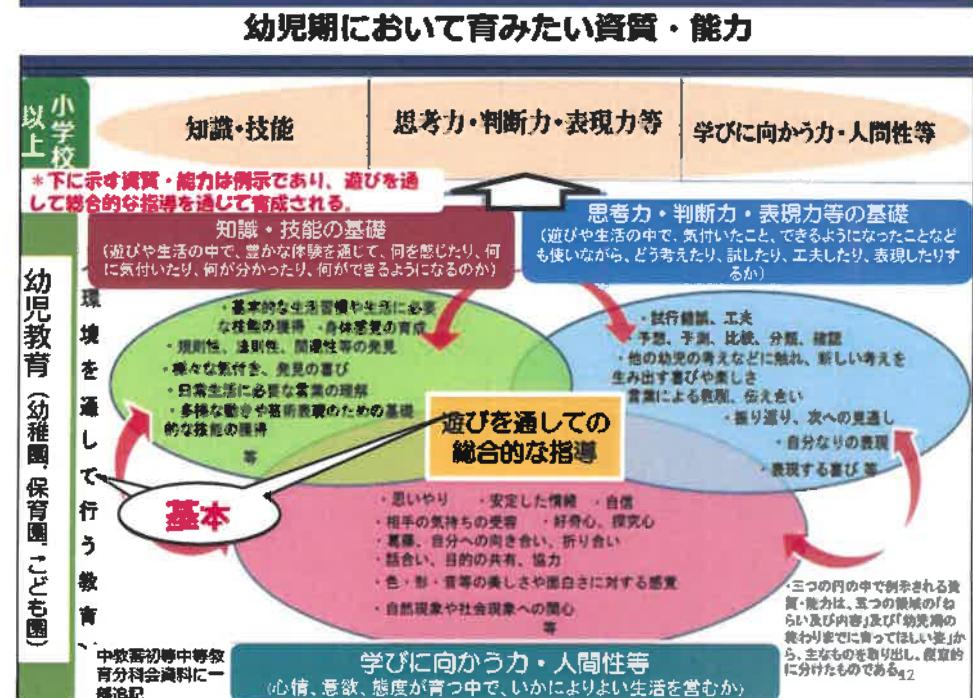
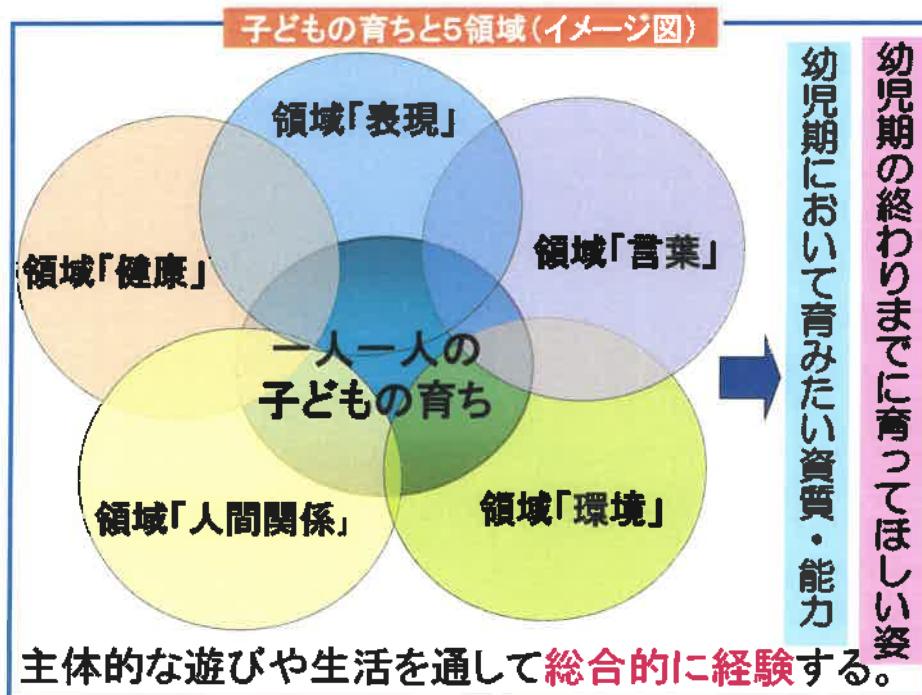
### 確認！

「踏まえる」とは、遊びや生活を通して幼児教育において育みたい資質・能力が形成され、その結果として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれの姿が幼児の姿として一体となって見られるようになるという意味であることを十分理解し、総合的に指導すること

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の各項目に示された姿を切り取って、順にねらいとして位置付けることでもありません

各学年においてふさわしい遊びや生活を積み重ねることを通して育まれるようにすることを忘れてはなりません

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は到達目標でも、個別に取り出して指導するものでもありません



## 小学校教育への接続について 【小学校学習指導要領における学校段階等間の接続に関する記載】

<参考>

### 小学校学習指導要領

#### 第2章 各教科

##### 第5節 生活

###### 第3 指導計画の作成と内容の取扱い

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通した総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。<sup>13</sup>

## 改めて確認！

「接続」：子どもの育ちや学びを保育から小学校教育へつなげていくこと

「連携」：幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園等と小学校が円滑な「接続」のために、協力体制をつくっていくこと



## 連携から接続へ

### ゼロからのスタートじゃない！

子どもは幼稚園にたっぱりと学んでいます



#### 幼児期 学びの芽生え

- ・新しいことや好きなことに集中することを通して、様々なことを学んでいく。
- ・遊びを中心として、心も体も動かして様々な対象と直接的につながりながら、自然的に学んでいく。
- ・日常生活の中で、様々な言葉や表現によるコミュニケーションによって他者と繋り合う。



幼児教育

#### 児童期 自覚的な学び

- ・学ぶことについての重きがあり、集中する意識とそれがない場合(何者かの影響)の危険が付き、自分の問題を解決に向けて、計画的に学んでいく。
- ・自己理解の学習内容について理解を進めて学んでいく。
- ・主に自己でやる意したいらし、思ひだり思ひたり一緒に活動したりすることで豊かと繋り合う。



小学校教育

#### スタートカリキュラム

- ・5項目(色彩、人間関係、環境、言語、表現)を概念的に学んでいく教育内容
- ・子供が企画づくりに自信を持った日の流れ
- ・身の回りの「人・もの・ことが教材
- ・集合的に学んでいくために工夫された環境の構成など

- ・各教科の学習内容を基礎的に学ぶ範囲
- ・時間割に沿った1日の流れ
- ・登校時間が生じる負担
- ・長期休業があるときに工夫された学習時間など

### 与那原幼稚園の事例から

#### ① 委員会活動担当の先生との話し合い



児童も交流の方法を考えて（→理解へ）



よりよい交流へと改善



開けの広がりと深まり



## 小学校では・・・

### 4. 入学して1日目はこんなことをしました！

「はてな（？）」をいっぱい見つけて、解決していくことが勉強だよ！と確認しました。  
1年2組から出たはてなは・・・

- ① ランドセルはどこに置くの？
- ② 水筒はどこに片付ける？
- ③ お家から持ってきたお手紙はどこに出すの？

#### ② 水筒はどこに片付ける？

「ぼくたちの園では、くるくるしてたよ」

担任「くるくる！？・・・」

子どもたちに聞いてみると、水筒をかごに入れるとき、ひもが絡まるから、水筒にひもをくるくる巻いてから置いている園があったのです。（私は初知り！）「すごい、いい方法だね」と2組でも取り入れることになりました。（子どもたちから学んでいる私です）



## 円滑な接続を・・・とはいいうけれど

○幼児教育で育まれた力がどのように小学校につながっていくか、イメージしにくい

○一つの園から複数の小学校へ入学する、一つの小学校に複数の園から進学するといった状況から、連携を効果的に進めることが難しい

○保育者によっては、幼児は遊びを通してどのような体験をしているのか、どのような力が育まれているのかわからない、幼児の体験が深まるように環境を工夫することが難しい

### 5. 給食準備は、ぼくがやりたい！わたしがやりたい！

子どもたちは、これまで園で、最年長としてリーダーシップを発揮しているんです！給食の配膳もそれぞれの園でやってきています。ここでは、子どもたちにおもいっきり任せました。自分たちで、ご飯や味噌汁、おかず、装っていきます。もちろん、床は、ごはんつぶだらけ、おちゃわん落とすことも・・・笑ご飯も、これいれすぎじゃない！？笑 などもありますが・・・それでも、「園でやってきたことが、小学校でも同じだね」と声かけをしながら、子どもたちに任せています。



その他、給食前のあいさつ、並び方等、子ども達から聞き取って、一年生の生活に取り入れている。

↓  
自分たちの生活を作り出していく実感を子ども達自身が味わい、自信へつながっていく。また、イメージして行動しやすい。

## 沖縄県幼児教育について



本県では、全ての子どもを「黄金っ子」と位置付け、0歳～小学校低学年期(8歳)までの年代を中心として、子どもと、その保護者の子育て支援の充実を図ることによって、力強く沖縄の未来を拓く子ども達を育んでいきます。(p8)

図5 黄金っ子(0～8歳)の育てのイメージ (P30)



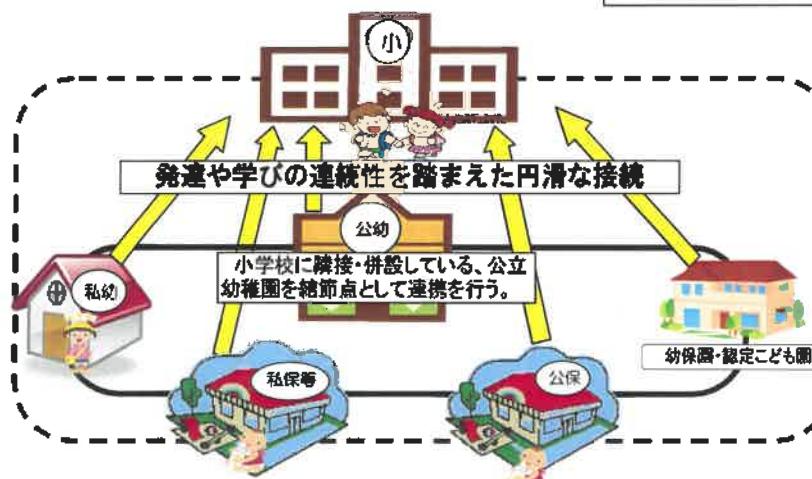
### H24沖縄型幼児教育

#### <連携1> 5歳児

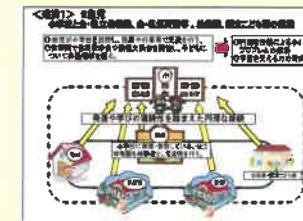
小学校と公・私立幼稚園、公・私保育所等、幼保園、認定こども園の連携

- 幼児が小学校を訪問し、授業や行事等で交流を行う。
- 教師間で合同研修会や情報交換会を開催し、子どもについて共通理解を図る。

- 円滑な接続による小1プロブレムの解消
- 学習を支える力の育成



本県の特色を生かした「沖縄型幼児教育」の構想を推進し、公立幼稚園が保育所、私立幼稚園及び認定こども園等との**結節点**となって、小学校との連携を充実させていくことによる、黄金っ子(0～8歳)の教育・保育の質の向上の取組が必要です。(p38)



### H24沖縄型幼児教育

#### <連携2> 0歳～5歳児

公・私立幼稚園、公・私保育所等、幼保園、認定こども園の連携

- 教師間で合同研修会や情報交換会を開催
- 発達段階に応じた指導内容や役割の共通確認

- ▶ 保育所・幼稚園の連携を活かした質の高い幼児教育・保育の保障



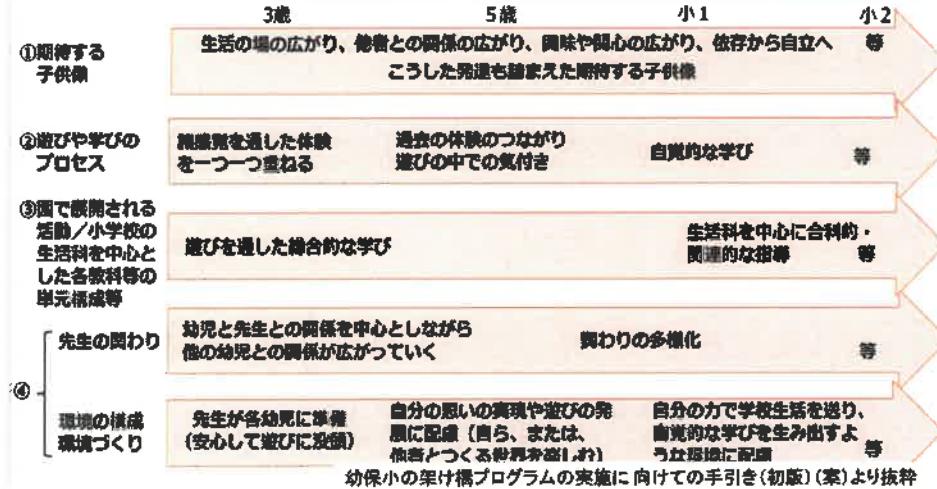


## 4-(2) 子供の姿や発達に応じた共通の視点の例の工夫のイメージ例

かけ橋期を通じた共通の視点の例について、例えば、子供の姿や発達に応じた以下のようなつながりを意識して、幼保小の先生と一緒に考えて具体化していく。

- ・子供の姿や発達を踏まえ、遊びや学びのプロセスをどのように深めていくのか
- ・園で展開される活動／小学校の生活科を中心とした各教科等の単元構成等をどのようにしていくのか
- ・そのため、先生の関わり、環境の構成や環境づくりとしてどのような工夫があるか

### かけ橋期のカリキュラム



文部科学省第8回幼児教育と小学校教育のかけ橋特別委員会 高知県資料 11

### ①健康な心と体

園生活の中で、児童はもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に動かし、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

幼保小の関連  
入学  
児童期  
年長の誕生日  
子どもの姿

子どもたち  
・体を動かす様々な活動に自分なりに自己をもって挑戦したり、困難なことにつまずいても気持ち切りもあって乗り越えようとする。  
・生活の流れや状況の変化などを予測して、準備や片付けを行なうなど、保育者の助けを待しながら見通しをもって生活を送る。  
・5~6人で自分がより遊び方やルールを考えたり守ったりして遊ぶ。  
・自分で接続や結果ができるようになり、和式のトイレも使えるようになる。  
・自分の持った物を大事にしたり、ロッカーへ道具入れなどに片付けたりするようになる。  
・自分が本職を着用し、活動により汗を浃いやバジャマを浴びたり、暑さや寒さによって衣服を調整したりようとする。  
・病気の予防に关心をもたらし、体の不調があれば身近な大人に知らせることができる。  
・自分がやりたいと思うことを自己決定し、意思的に取り組んだり、達成感を味わったりする。  
・運動遊び(体育)で初めてに向かって進級的に取り組んだり、家庭と競合したりして、休み時間などに思いきり身体を動かして遊ぶ。  
・次の時間の活動を考へて準備したり、時計を意識して活動したりするなど、一日の生活に見通しをもって行動する。  
・体温計や水着の着替えなど、衣服の準備が自分でできる。  
・手洗い・うがい・浮ききり・食事・休憩などを必要性を意識して自分で行い、徹底に気を付けて生活する。

保育者が大切にしてきたこと  
・運動遊びなどを通し、災害時や非常時に自分の身を守ろうとする。  
・右側通行、信号の見方、横断歩道の渡り方、道路の肌感覚の仕方など身近な交通ルールが分かって守ろうとする。  
・周囲の安全に気を付けて行動する。  
・いろいろな食べ物に親しみ、苦手な食材もがんばって食べてもらうようとする。  
・クラスの友達と一緒に楽しく食べる。  
・野菜を買お取扱したり、料理してもらって食べたりし、食べ物に关心をもって栄養などにも気付くようになる。  
・自分で車輪を着脱し、活動により汗を浃いやバジャマを浴びたり、暑さや寒さによって衣服を調整したりようとする。  
・組の車で改造したクマキギをむいたり切ってさて、すぐに車両を、「組く」と色が変わったときに見えるねー!

小学校教員が大切にすること  
・運動の中で、児童が自己決定する場面を多く設定し、主体的な学びになるように留意する。  
・安全に安心して進歩する場所を確保する。  
・児童自らが担当や半導の選択をしてもらおう、順序に尚ほしたり、親切に取り組めるようよりともっともつとめた瞬間を保障するなどの支援をする。

### 1. 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の捉え方の例

自らの興味や関心に応じて、思うがままに環境と関わる中で、様々な体験を積み重ねていく。その具体的な姿について「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに捉える。

活動の中での具体的な幼児の姿を通して、幼保小の先生方が話し合うことが大切である。ここでは、幼児が自分で考えたお店屋さんごっこ(クレープ屋さんの場合)を例に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えてみる。

#### 健康な心と体

明日、クレープ屋さんをやりたいと思って、お店に必要な道具を考えてくれる

#### 自立心

自分達で考えたお店作りが、自分達の力で実現できた達成感、友達が喜ぶ充実感を味わう

#### 協同性

実現したいお店のイメージを友達と共にし、役割分担したり協力したりしながらごっこ遊びを展開する

#### 創造性・規範意識の芽生え

やりたいことが友達と異なる時には、折り合いをつけながらまとめてくる

#### 社会生活との関わり

楽しかった地域のお祭りの経験を友達と共にし、かっこよかったですクレープ屋さんを再現してみたいと考える



「乐しかった」と「一緒にやりたい」

「今朝体験してほしい」  
« 今回の目的の実現に向けて協力したり、相にけないの運び方」がつかりあう中で、相手の立場になって考えたり、思いきや特許できる代話を考えたりしてほしい。

#### 言葉による伝え合い

興味を持った出店について友達と意見交換し、自分の思いが伝わる表現を工夫したりしながら話し合う

#### 豊かな感性と表現

クレープ生地に食材を置くときに、カラフルできれいに見えるようにするなど、自分なりの表現を楽しむ

文部科学省幼保小のかけ橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料(初版)(案)

## おわりに

### Point 1

## 小学校区の連絡協議会、研修会の充実

校長先生、園長先生のリーダーシップで、授業参観・保育参観(協議を含む)の実施を! また、行政はシステム作りのサポートを!

### Point 2

## 子どもの姿が見える、使える接続(期) カリキュラム(かけ橋期のカリキュラム) 作成

行政が研修会を開催し各小学校区内で就学前施設・小学校が事例を持ち寄りながら、具体的に学び合い作成する場の提供を!